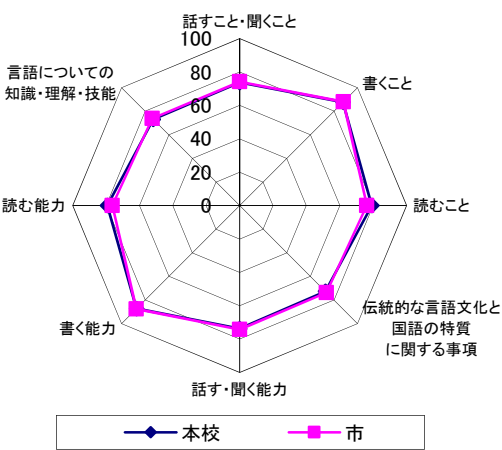


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.7	74.2	68.8
	書くこと	87.6	88.0	73.8
	読むこと	79.2	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.7	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	73.7	74.2	68.8
	書く能力	87.1	87.5	73.8
	読む能力	79.2	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	73.0	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

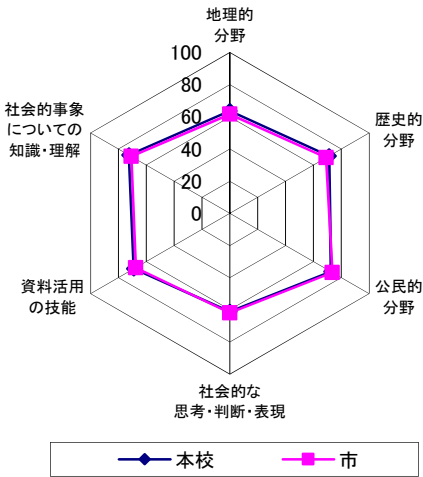
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○質問に対して根拠を明確にして答えることができる問題の正答率は、市の平均と全国平均の両方を上回った。 ●話の内容を正確に聞き取ることができる問題、話し手に理解してもらうための問題の正答率は市の平均をわずかに下回った。	・話し合いの仕方は身に付いているので、話し合いのときには、相手をよく見て話を聞き、その後大切なことをノートに書いておく習慣を付ける指導に重点を置きたい。
書くこと	○自分の立場を明確に書くことの正答率は、市の平均と全国平均の両方を上回った。 ●自分の立場を明確に書くことができる問題と自分の考えを明確にできる問題の正答率は市の平均をわずかに下回った。	・条件に沿った文章を書く力が身に付いたと考えられる。今後は向上を図るために指導を継続していきたい。ただし、今後は自分の意見を書く際に、その理由や根拠も明確にした文章を書く指導に重点をおきたい。
読むこと	○文学作品の内容を読み取るすべての問題で正答率は、市平均と全国平均の両方を上回った。説明文の内容を読み取る問題も市の平均を上回っているものが多い。 ●説明文の文章の展開をとらえてその内容を整理し、まとめる問題の正答率が市の平均を下回っている。	・文学作品を読み取る力は向上しているので、今後は筆者がどのような意図でそのような表現を使ったかなどを考える必要がある。また、説明文の理解を深めるためにも、短い文章や韻文から表現の特徴を捉えるための指導に重点をおき、段落構成や筆者の要旨を捉えていく指導も設けたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を書く問題では、市の平均を上回っている項目が多かった。また、助詞について理解している問題の正答率も市の平均を上回っている。 ●古典の内容を読み取る問題では、市の平均を下回っている項目が多かった。とくに文章の展開に即して内容をとらえることができる問題の正答率は市の平均を大きく下回った。	・日常的に使う漢字の読み書きだけでなく、中学生があまり使わない漢字の指導にも重点をおきたい。また、言語についての知識を増やすため、辞書を用いた授業を日常的に行うことにも重点をおきたい。また、古典分野においては語句の意味をとらえる指導も多く設けていきたい。また、さまざまな古典の作品に触れさせる機会を設けたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.7	61.7	54.6
	歴史的分野	71.3	69.2	59.6
	公民的分野	72.6	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.1	61.9	51.9
	資料活用 of 技能	69.0	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	72.5	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

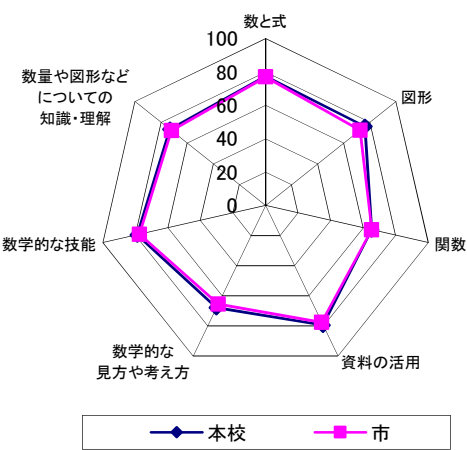
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○全体的には、市よりも2.0ポイント高い正答率となった。知識・理解に関する問題はすべて市の平均を上回った。また、思考・判断・表現に関する問題も1題を除いて市の平均を上回った。 ●日本の諸地域と身近な地域の調査の問題では、資料から読み取り考察する問題の正答率が市の平均を下回った。	・ワークを中心に、基礎的・基本的事項の理解度を向上させたい。小単元テスト等も行い、基礎・基本のさらなる定着を図っていく。事象について考察させ、自分の力で表現する力も身に付けさせていく必要がある。資料の読み取りに関しては、デジタル教材を有効に活用し、グラフ等の変化や推移を視覚的に読み取らせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力の向上を図っていく。
歴史的分野	○全体的には、市よりも2.1ポイント高い正答率となった。古代・近世を中心に市の平均を上回ることができた。 ●思考・判断・表現に関する問題の正答率が低かった。	・人物名や出来事をただ覚えるのではなく、必ず時代と関連づけることを意識させることを継続していく。歴史的分野に関しては、資料の読み取りや、事象の考察なども正答率は高くなっているが、地理同様引き続き、デジタル教材などを活用し、歴史的事象とその背景等を視覚的に読み取らせるとともに、思考力や表現力の向上を図っていく。
公民的分野	○「わたしたちの生活と現代社会」と「現代の民主政治と社会」に関する問題の正答率は高かった。また、基礎的な内容に関してはきちんと得点することができた。 ●全体的には、市よりも1.0ポイント低い正答率となった。「人間の尊重と日本国憲法」に関する問題の正答率が市の平均を下回った。	・議院内閣制や公共の福祉に関する問題が特に正答率が低くなってしまったので、事例形式の問題を授業に盛り込むことや国会・内閣裁判所に関する関係をデジタル教材等を活用しながら、特に丁寧に理解させる必要がある。公民的分野は、身近な生活と関わってくる部分も多いので、日々のニュースなども適切に取り上げ、社会に対する関心を高めていくことも必要となる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.4	77.1	71.0
	図形	76.1	72.4	59.3
	関数	65.2	65.2	51.0
	資料の活用	79.5	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	67.8	65.5	48.8
	数学的な技能	78.8	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	73.2	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

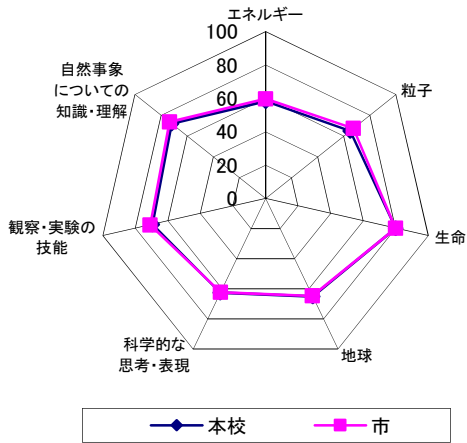
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○累乗を含む正負の乗法、平方根の大小の表し方、分母の有理化、方程式を立てることと解くことに関しては、市平均を上回っている。 ●文字を含む式の計算が不得手である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・数と式の領域全般が苦手であるため、3年生での習熟度別学習で、1・2年生の問題も含め、「学び直し」の機会をしっかりと設け、基礎・基本の定着を図る。 ・連立方程式で加減法の意味を理解し、それを使って連立方程式を解いたり、既習事項を活用することが課題である。1つの問題をじっくり読み込み、既習事項を活用して表現できるよう、丁寧に課題を扱っていく。
図形	○すべての問題において、市平均を上回っている。 ●空間図形における直線や平面の位置関係を捉えることが不得手である。	・平面図形や空間図形における、基本的な定義・定理を理解して問題を解くことはできている。1・2年の既習事項は定期的に取り上げて、繰り返し指導していく必要がある。 ・証明問題は、スモールステップで、丁寧に指導していく必要がある。
関数	○反比例の関係を表から式に表すこと、傾きと1点の座標から1次関数の式を求めることについては、市平均を上回っている。 ●変化の割合を求めること、文章問題を読み取りその関係を表すグラフを選ぶことは、市平均を下回った。	・関数関係を理解するには、式・表・グラフを関連させて考えさせる必要がある。授業で繰り返し取り上げることで、定着させたい。 ・文章の読み取りが不得手である。授業でその都度時間を取り、丁寧に課題を扱い指導する。
資料の活用	○度数分布表から、階級の相対度数を求めること、確率の問題を解くことについては、市平均を上回っている。 ●資料から最頻値を理解する問題では、市平均を下回っている。	・資料の活用については、度数分布表から、相対度数や平均値など関連する用語をしっかりと理解し、繰り返し授業で取り上げることで、技能を定着させたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.4	59.7	57.9
	粒子	64.9	67.4	59.8
	生命	79.9	79.9	73.5
	地球	65.1	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	62.6	62.3	56.3
	観察・実験の技能	69.6	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	72.1	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

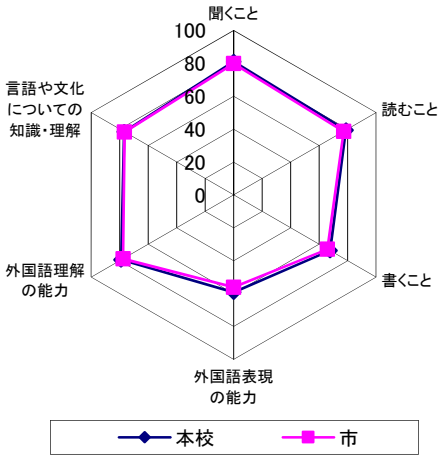
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●市の平均より1. 3ポイント下回った。 ○位置エネルギーと運動エネルギーの関係を、グラフ から推測する問題は理解できていた。	・物理は苦手な生徒が多く、演習問題を授業の中で多く取り入れることによって、理解を深め、公式を活用できるようにしていく。 ・理解の差が大きく、生徒の能力に応じた演習問題を、進められるような時間が取れるように工夫をする。(生徒同士が教えあう工夫)
粒子	●市の平均より2. 5ポイント下回った。	・実験の結果から考察をする活動を工夫していく。 ・実験や観察の目的をしっかりと理解させ、結果を十分考察できるような方法や、ワークシートなどを工夫していく。 ・目に見えない粒子などは、モデルや視聴覚教材を利用するなどして、実感させて理解をさせていく。 ・定期的に復習していくことで、内容の定着を図る。
生命	●市の平均と同じだった。 ○植物の問題やヒトの体の問題は比較的 understanding できていた。	・記述形式の問題はよく解けているが、植物の分類や消化のしくみの図から考えるなど、総合的に考える問題に課題が見られる。理解しやすい提示の仕方の工夫や問題演習に十分時間をかける。
地球	○市の平均より0. 4ポイント上回った。 ●「御影石」のでき方についての問題は、正答率が低かった。	・基本的な語句や、基本的な作図を繰り返し復習していく機会を増やしていく。 ・「御影石」は花崗岩であることや、天気図から天気を予想するなど、学習内容と身近な現象を結び付けて示すことによって、興味を持てる授業を実践していく。 ・必要に応じて、視聴覚教材を使い、自然現象について理解を深められるように工夫する。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	81.0	79.9	75.7
	読むこと	78.9	77.3	72.8
	書くこと	67.7	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	59.2	56.1	58.8
	外国語理解の能力	79.0	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	76.9	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市の平均と比べ、1.1ポイント上回った。 ●英文の要点を聞き取る問題は1.5ポイント下回っている。まとまった内容の英文を聞き取る問題は、苦手な生徒が多いようだ。	・ある程度多くの内容について聞き取り練習が必要である。 ・定期的リスニング問題に取り組んだり、ALTを効果的に活用したりする。 ・聞いた内容について、答え合わせの際にもう一度英文を見ながら聞くことも理解につながる。
読むこと	○市の平均と比べ、0.6ポイント上回った。 SVOCの語順についての問題は、よく理解している。 内容理解については、おおむね理解度が高い。 ●対話文の流れから適切な表現を選ぶ問題は、正答率が市より下がる。	・長文を時間内で正確に読む練習をしたり、対話文で会話の流れを適切に読み取れたりするよう練習をする。 ・帯活動を活用。短い内容の英文を読み慣れしておく。
書くこと	○市の平均と比べ、1.7ポイント上回っている。 ●自分の夢についてまとまった内容を書く問題は、市と同様正答率が低い。	・モデル文を参考にして、自分の知っている単語で正確に文章が書ける練習をする。 ・単語を正確に書けるよう、単語テストを定期的に行うなどして、語彙力を上げる。また、基本的な文法事項の定着を図る。